

経営比較分析表（令和4年度決算）

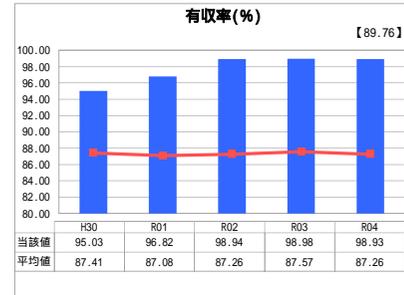
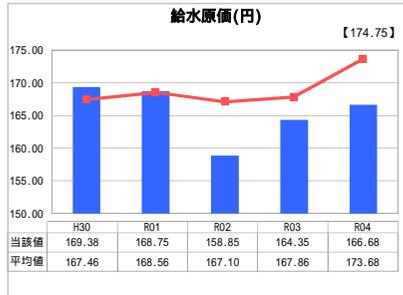
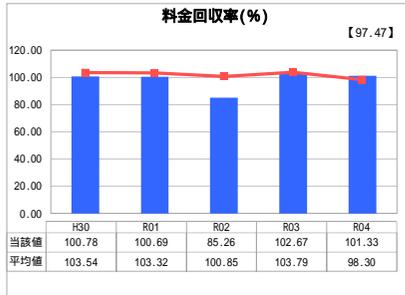
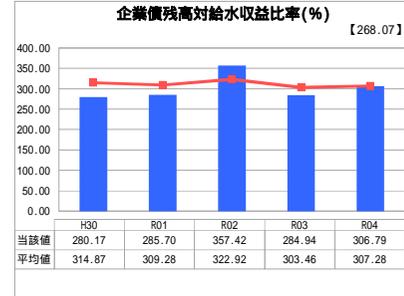
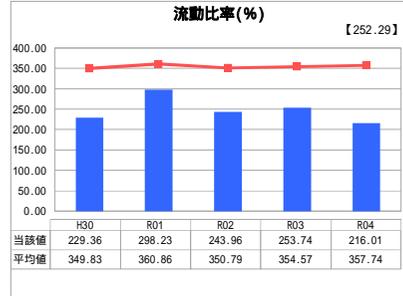
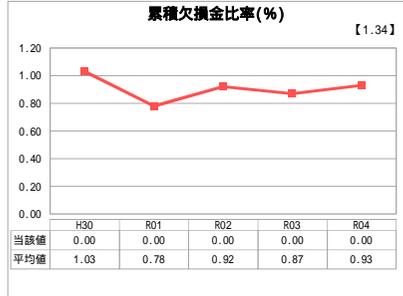
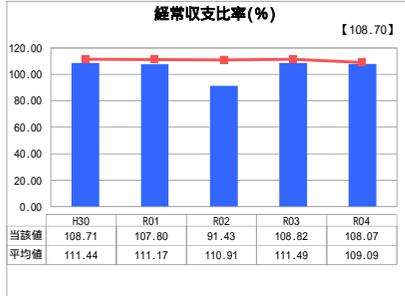
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	57.76	100.00	2,530	

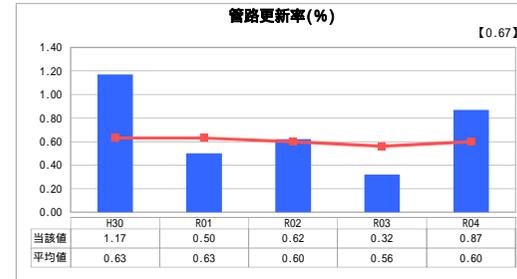
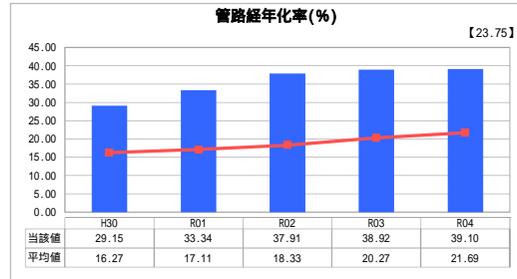
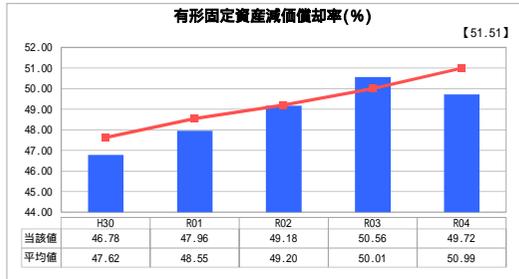
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
95,378	18.47	5,163.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
93,368	11.93	7,826.32

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

（経常収支比率）は令和2年度に減免を行ったため一時的に悪化したものの、その後は令和元年前と同水準にまで戻している。
 継続的に安定して100%を超えていることから、支出の抑制、業務効率化、組織の見直し等の効果が表れている。
 しかしながら、昨今のコスト増が給水原価の上昇という形で表れており、先行きを楽観視できる状況ではなく、経営努力の継続が必要である。
 （企業債残高対給水収益比率）は類似団体より低いものの、増加基調にあり、起債発行額の抑制を検討すべきであると考えられる。
 （料金回収率）は100%強で推移しており、水道事業として独立採算を堅持できている。
 （施設利用率）は低い水準で推移しており、施設の効率化についてはさらに検討の余地があると考えられる。

2. 老朽化の状況について

（有形固定資産減価償却率）（管路経年化率）の上昇が頭打ちとなっているが、全体として施設の老朽化が進んでいることは明らかである。
 （有収率）が高いうちに、（管路更新率）を高水準に維持するなど、着実に施設整備を進める必要がある。

全体総括

節水技術の発達と人口減により、中長期的には水需要の減少すなわち給水収益の減少が見込まれるため、計画的な機器設備の更新と効率化を追求し、健全な経営の継続に努めていかなければならない。